

発刊の辞



多摩田園都市は本年度で満35年を迎えました。東京の西南部、都心から15～35キロ圏を走る田園都市線が谷駅から中央林間駅に至る沿線に、現在43万人の人々が住み、全国でも屈指の住宅都市にかぞえられております。

顧みますと、当社における開発の歴史は、明治の実業家渋沢栄一翁が提唱した田園都市構想にさかのぼります。「自然を多分に取り入れた都会」を理想とする田園都市構想が、田園調布や洗足の街づくりに生かされ、多摩田園都市の開発へと受け継がれたわけです。

昭和28年、五島慶太前会長は、戦後の混乱の中で東京の過密化を予測し、その解決策として東京の西南の地に新都市を建設する構想を、「城西南地区開発趣意書」として発表しました。

これを具体化すべく、31年にマスタープランが策定されましたが、この計画は、約4500ヘクタールにおよぶ開発区域に、鉄道を主体とした四つの都市を建設し、そのうち約2000ヘクタールの住宅地開発を当社が行うというものでした。

しかし、農地や山林を宅地化するというこの計画は、食糧増産を優先する当時の農地行政と相容れないところがあり、さらに東京の膨張を抑えようとして立案された首都圏構想は、当社が開発しようとする区域をグリーンベルトで覆い、開発を抑制しようとするものでした。このためその実施が危ぶまれる状況にたたされましたが、交通手段を伴った新都市計画は次第に行政当局の理解を得るところとなり、区域の一部変更がありましたが、34年、一括代行方式による純民間施行の組合土地区画整理事業が川崎市野川で始まり、続いて38年、溝ノ口～長津田間の鉄道延長工事が着手されました。

こうして開発は軌道に乗り、横浜市、町田市、大和市の各市域でも区画整理事業が相次いで実施され、田園都市線を軸とした今日の多摩田園都市ができあがりました。

現在までに46組合・2872ヘクタールの区画整理事業が完了し、5組合・288ヘクタールが施行中で、当初の予定規模を大幅に上回っております。

その多摩田園都市の開発も、いまや仕上げの段階にさしかかり、生活利便施設、都市基盤の整備も完成の域に近く、昨年10月には「東急ケーブルテレビジョン」を開局し、この地域に新しい情報源を付加いたしました。

いうまでもなく都市は生きものであり、人々の暮らしとともに、時代とともに、その姿は変貌します。事実、過度の首都圏集中、地価高騰の波が、この地域にも押し寄せています。

しかし、地元の方々との連携プレーによる街づくりによって多摩田園都市は、いま、感性豊かで人間的な暖かみのある街、楽しい発見のある街に成長しつつあります。

これもひとえに、開発にご賛同とご協力を惜しまなかつた地元のみなさま、ご指導を賜った関係行政庁および開発に携わった関係各位のお陰と心から感謝を申し上げます。

先般、この多摩田園都市の開発に対し、日本建築学会賞を与えられましたが、永年にわたる多摩田園都市の街づくりが評価されたものであり、大変名誉ある受賞であると考えております。

これからも当社は多摩田園都市のさらなる飛躍を期し、「21世紀に向けて豊かさを深めて」いくために、住民の方々の生活向上にどう寄与できるか、そのために今後の街づくりはどうあるべきかを追求していきたいと思っております。

本書は、以上のような多摩田園都市の歩みをつまびらかにしたものです。これを通じて地元のみなさまと東急グループがつくりあげた街「多摩田園都市」へのご理解を深めて頂ければ、これに過ぐる幸いはいございません。

昭和63年10月

東京急行電鉄株式会社

取締役会長

五島 昇

取締役社長

横田 二郎